

令和2年度 山武市立成東東中学校「学校評価」結果の考察

1 はじめに

(1) 実施内容

- ①教職員の「自己評価」・「生徒アンケート」・「保護者アンケート」の3種類を実施した。
- ②質問事項を三者同一とし、比較できるようにした。
- ③質問事項の文言については、それぞれの立場に応じたものとした。
- ④教職員の「自己評価」のみ「特別支援」に関する質問項目を設けた。
- ⑤質問事項を精選し、マークシート方式とした。
- ⑥評価の実施は2回。時期は昨年度と同様に1、2学期末とした。
- ⑦三者（教職員・生徒・保護者）とも肯定率が80%未満の項目を今後の課題とする。

(2) 生徒・保護者アンケートの協力率（%）〈12月実施〉

対象	全体	1学年	2学年	3学年
生徒	96%	96%	94%	97%
保護者	89%	89%	88%	86%

2 考察

(1) 生徒・保護者アンケートの協力率について

- 生徒の協力率が100%に満たないのは調査当日の欠席者の数による。
- 保護者アンケートは生徒を通じて配付・回収している。回収については「保護者宛て文書」や「学校だより」により協力依頼をするとともに、学級担任から生徒へ声かけを行った。その結果、多くの保護者から協力を得ることができた。その中で、回収方法の改善や無記名の要望などアンケート調査実施方法の意見もあり次年度に反映させていきたい。今後も保護者との良好な関係を築き、このアンケートを保護者との意見交換の一つとし、学校運営に反映させる。御協力に感謝する。

(2) 全体的な傾向について

- 生徒・保護者の肯定率について、多くの項目において80%を上回る状況である。学校生活全体を通して、肯定的な要素が多いことがうかがわれる。
- 特に、学校満足度（大分類平均値）については、生徒が93%、保護者が85%とまずまずの肯定率であった。今回は新型コロナウイルス感染症の影響が、それぞれの項目において影響されている部分もある。
- 大分類「学校経営・学校運営」「生徒指導」「学習指導」「学校行事」「部活動」の5項目のうち、80%を下回ったのは、昨年同様「学習指導」の保護者であった。
- 大分類「学習指導」において、小項目の「わかりやすい授業」の保護者の肯定率65%、「基礎・基本の定着」の保護者の肯定率65%及び教職員の肯定率52%が全体の数値の中でも極端に低く、毎年の大きな本校の課題である。

(3) 学校評価アンケートから読み取れる本校の課題

毎年のアンケート結果からも、成東東中学校の継続した課題は、大分類での「学習指導」である。学力向上に向けて教職員の指導力向上を目指し、校内研修や学力向上委員会で議題にしながら取り組んではいるものの数値には表れない。特に「わかりやすい授業」「基礎・基本の定着」の項目では保護者の数値が65%と全項目において一番低い数値である。学力の定着においては、心配していることであり、関心が高いことで、その期待に応える必要がある。教職員も「基礎・基本の定着」においては52%と痛感していることで指導方法の工夫・改善を常に図りながら学力の向上を目指す。

生徒指導では、80%は超えているものの、いじめ防止では80%を超えたという表現がふさわしい。学校側としては、学校生活において未然防止、早期発見、早期対応を心掛け、教育相談やアンケート等有効活用し、対応しているが、生徒間のトラブルは尽きず、情報共有し、全職員で反応・対応・適応させ向上を図る。

学校経営・運営では、安全管理において三者とも95%という高い数値を超えた。今年度の感染症に対する対応への高評価をいただいた。感染症対策は今後も継続するものであり安堵せず、感染症対策や社会情勢に対応・対抗できる組織力を学校全体で構築していく。

学校行事や部活動など学校生活全般（いじめ防止対策も含む）における三者（教職員・生徒・保護者）の回答は、85%を超える肯定率である。これは、職員が信頼される学校づくりに向けて、日々着実に取り組んでいることが評価されたと考えられる。この点も安堵せず、学校教育目標の実現に向けて、引き続き生徒が安心して安全な学校、保護者や地域の方々に信頼される学校をめざし、日々実践を継続することが責務である。

(4) 学力向上に向けての手立て 「学ぶ楽しさ⇒達成感・自信（自己肯定感）へ」

①指導力の向上

- 生徒個々の学力や実態を考慮した「個に応じた指導（指導の個別化・学習の個性化）」を図る。
- きめ細かな指導を徹底するために、少人数指導の工夫やT T指導での習熟度別指導の充実を図る。
- 学習委員会の取り組み～学力向上プログラムを企画
- ドリルによる繰り返し学習を積極的に取り入れる。（各教科授業内でも）
- 単元テストによる形成評価とフィードバックの積み重ねによって、「基礎学力の定着」を図る。～振り返り学習の定着
- ICT機器を積極的に利活用し、生徒が興味・関心をもって授業に臨めるように工夫・改善を図る。ICT支援員の活用。～タブレット、冒険くん、ノートパソコン、デジタル教科書など
- eライブラリの有効活用（職員研修を通して職員の利用率をあげる）
～授業教材（プリント活用）、家庭学習利用、ドリル学習、調べ学習、入試問題演習、学習記録など多岐にわたる活用をめざす。
- 「ちばのやる気ガイド」（千葉県教育委員会）の活用
- 社会的なものの見方・考え方～社会科新聞作成、各コンクールへの応募

②保護者との連携

- 効果的な家庭学習のあり方、習慣化を構築する。

③外部機関・地域の教育力の活用

- 補習授業を全学年で実施～G A Aの先生方の計画的な活用（時期・内容など）
- キャリア教育や専門分野における地域人材の活用

(5) その他

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、社会や学校等が今まで経験したことがない様々な影響を受けた。三密を避けた新しい生活様式の中での2か月遅れの新年度、教育課程に再構築、学校行事等の見直しや中止等、学校現場では、感染症対策に追われた毎日であった。それ以上に、生徒自身や各家庭における不安や不満は、ひと言では計り知れないものがあつたと考えられる。

その状況下の中、学校・地域・家庭との連携において、学校からの情報発信は難しい状況であった。今年度の反省を生かし、今後もホームページやメール、オンライン（リモート）等の、ICT機器の活用により、より効果的な学校運営を目指していく。